



箕面市栗生間谷にて

『今だー』 いっせいにカメラのシャッター音が、辺りに響く……

多くのアマチュアカメラマンが見守る中、巣立ちした雛がエンゼルポーズを見せました。日本には、青葉が芽生える季節に繁殖のため飛来することから、和名を『あおばすく』と言い、フクロウの仲間です。奄美大島以南の南西諸島では周年生息し、リュウキュウアオバスクと呼ばれます。

大木の樹洞に巣を作り、1回に2〜5個の卵を産みます。卵を抱くのはもっぱらメスで、オスは見張りをしたりメスに獲物を運んだり……巣立ちを迎えた雛は、日々飛ぶ練習を重ね、越冬のために家族で東南アジアへ旅立って行きます。

近ごろ、巣作りを行なう大木が伐採されたり、越冬地が開発されてしまい、全体的に数が減っているそうです。みんなで環境保全に努め、青葉の季節が来る毎に、愛らしい姿を見たいものです。

